

2010年7月1日発行

秋田大学

国際交流センターニュース 第3号

Akita University International Exchange Center News

発行者： 国立大学法人秋田大学国際交流センター 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/> 電話：(018) 889-2856 kokusai@jimu.akita-u.ac.jp

- ・「多文化交流ラウンジ」オープン (1)
- ・国際交流センター長・就任挨拶 榎本克彦 (1)
- ・学生たち、世界4か国で学ぶ (1,2)
- ・モンゴル・中国との交流進む (3)
- ・Sonya と Roz がやってきた (3)
- ・スタッフ紹介3 齋藤裕幸、正木康子 (3)
- ・専任教員からひとこと 牲川波都季 (3)
- ・巣立ちと新たな出会い (4)
- ・国際交流課長・新任&退任の挨拶 (4)
- ・お知らせ — お茶っこ飲み・ミニ講座 (4)

○「多文化交流ラウンジ」一般教育1号館2階にオープン

4月15日、本学の外国人留学生と学生、教職員の交流をさらに進めるための「多文化交流ラウンジ」がオープンしました。交換留学生にとって初めての自習室となるとともに、10言語の外国語教材と視聴覚機器を設置し、全学生・教職員が多言語を自律的に学べるスペースとなっています。

また、教職員の専門や趣味を生かした「ミニ講座」、留学生たちとの会話を楽しむ「お茶っこ飲み」が毎週開催され、参加者の間に新しい関係性が作られつつあります。

- 場所：一般教育1号館2階
 - 開室時間：平日8:30～17:00
- 教職員による申込で時間外・週末も利用可。



ラウンジは、貸切利用も可能です。サークル活動や授業にも、ぜひ気軽にご利用ください。その他詳細は、当センター・ウェブサイト <http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/> まで。
 (牲川波都季：SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター)

○国際交流センター長・就任ご挨拶

● 榎本克彦……………ENOMOTO, Katsuhiko

2010年4月1日より国際交流センター長に任命されました。

昨年、日本社会の津々浦々に国際化の波が押し寄せていることを経験しました。秋田の由緒ある酒蔵見学へ行った時のことです。一通りの



見学を終え、杜氏の方とお話していたら、昨日はヨーロッパからの見学者があったということでした。日本文化の心髄ともいえる日本酒の世界にも、もちろん経済の論理とはいえ、国際化が進行している事実には驚かされました。このことはワインが世界中で飲まれているのと同じで、うまい秋田のお酒は世界に通用するということを意味しています。本当はわれわれだけで楽しみたいところですが…。就任にあたって吉村学長から言われたことは「秋田大学国際戦略構想」を策定してほしいということでした。「戦略」ともなると大変難しく頭をかかえています。本センターとしては、海外の高等教育機関との国際交流を通じて、上質なお酒のように世界に通じる人材育成と国際的競争力のある研究推進に貢献したいと考えています。(医学系研究科医学専攻腫瘍制御医学系分子病態学・腫瘍病態学講座)

○学生たち、世界4か国で学ぶ

2009年度に実施された、海外学生交流研修支援事業では、中国での研修(創刊号で紹介)も含め計5カ国で、協定校等との交流を推進するための多様な研修が行われました。教育研究高度化支援体制整備事業(文部科学省)予算によるもので、昨年度限りの事業ですが、これをきっかけに交換留学のさらなる活発化が期待されます。

●ハンバット大学、円光大学(韓国)……………

3月1日から13日までの2週間、ハンバット大学国際交流院の企画により韓国語・韓国文化研修を受けました。参加した学生は、教育文化学部国際言語文化課程7名、写真：「陶芸家の村」での陶磁器作り体験
 同学部地域科学課程1名、工学資源学部機械工学科1名でした。参加学生のうち1人は中国出身の学部正規生で、交流事業の意義がより深いものになったと言えるでしょう。



研修では、午前中は韓国語を学び、午後はビビンパ作りや伝統音楽などの文化体験、あるいはハンバット大学日本語科の授業参加や円光大学訪問(→2ページへつづく)

○ 学生たち、世界4か国で学ぶ

(→1ページからつづき) などを行いました。ハンバット大学の本学への留学予定者は文化体験行事にも同行し、円光大学訪問の際も同校の留学予定者が案内してくれました。逆に今では、秋田大学に留学してきた両校の留学生と、研修に参加した本学学生の交流が進められています。支援してくださったみなさんに感謝いたします。(高村竜平：TAKAMURA, Ryohei — 教育文化学部日本・アジア文化講座)

● ケニヤッタ大学 (ケニア)

東アフリカのケニア最大の国立大学であるケニヤッタ大学 (KU) を3名の本学学生が訪れました。前半は、KUの

メインキャンパスに滞在して、秋田大学との交流協定の調印式に参加、様々な学部を訪問、秋田大学紹介のプレゼンを行いました。なかでも、



他の日本の大学と合同で行った「日本の大学フェア」では、なまはげや竿灯祭りの鮮やかなポスターを貼り、小さな折り紙を箸で10羽つまめたら景品をあげるというゲームをしたり、着物の着付け、折り紙や習字といった日本文化紹介をおこなったりしてたくさんの学生と交流をしました。韓国、中国、ドイツなどからの留学生たちとも仲良くなりました。

後半は、日本人が経営する孤児院に滞在して、自給自足で運営されているNGOの様子や、スラムに住む人々の日常生活の実態に触れました。ここでは、換金作物としての野菜栽培や観光客向けの工芸品作りを通して自立をしようとしている人々、どんな環境にあっても夢を忘れない子供たちに会って、人間が生きていくことについて深く考える機会を得られたと思います。(宮本律子：MIYAMOTO, Ritsuko — 教育文化学部国際コミュニケーション講座)

● ブカレスト大学 (ルーマニア)

2010年2月28日から2週間、秋田大学生を3名引率し、ブカレスト大学を訪問しました。

主に日本語と英語の授業に参加し、そして、秋田大学、秋田県と日本文化のプレゼンテーションを学生3人で計16回行い、授業以外でも学生同士の交流が活発でした。外国語の授業はすべてその言語で行われ、ルーマニア人教員と学生のレベルの高さに、秋田大学生は驚いているようでした。将来、英語教員を目指す学生には、いい刺激になったように思います。また色々な職業イメージを具体化させるた

めに、在ルーマニア日本企業の方、ルーマニア大使館の文化担当官、英語日本語通訳の方に、秋田大学生への特別講義を依頼し、異文化理解の上で大切な経験談を語ってもらいました。現在、今年中の大学間協定締結に向け、着実に準備を進めています。どうかご期待ください。(モリタ・エマ：MORITA, Emma — 教育文化学部国際コミュニケーション講座)



● ケミ・トルニオ応用科学大学 (フィンランド)

In March 2010, Associate Professor Terri Lee Nagahashi led four Akita University students, Tomohiro Kudo, Keisuke Ono, Khos-Erdene Narangerel, and Haruka Otaki on a three-week study tour of Finnish Lapland. The purpose of this tour was to

develop the relationship between Akita University and one of our newest partners, The Kemi-Tornio University of Applied Sciences. It was a busy,



Photo: Snowmobile safari on the frozen Bay of Bothnia

exciting three weeks filled with presentations on Japanese culture, sushi parties, university classes, special lectures, tours, and participation in winter activities. We learned about the importance of a Finnish sauna for thawing out after being outdoors in -30 degree weather. We were impressed by the hospitable, hardworking, intelligent Finnish people and their keen interest in Japan. *Kiitos.* (ナガハシ・テリー・リー：NAGAHASHI, Terri Lee — 教育文化学部国際コミュニケーション講座)

● さらに海外で学ぼう — 海外留学説明会開催.....

5月12, 19日、秋田大学海外留学説明会を開催し、留学経験者や世話役教員から、協定校の魅力や各地域の特色を詳しく紹介していただきました。

今年度の特色は、第1回をアジア地域、第2回を英語圏等地域と、説明会を2回に分けた点です。これは、ケニヤッタ大学等と新たに大学間協定を締結し、英語で学べる交換留学先が増えたことによります。

今後は、英語圏を中心に派遣の増加を目指すとともに、英語圏以外の地域への留学にも意義があることを、積極的にアピールしていく必要があると考えています。

(牲川波都季：SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター)

○ モンゴル・中国との交流進む

● モンゴル教育文化科学省と協議

モンゴル教育文化科学省の要請を受け、本年3月に内田隆教授ら3名の教職員でモンゴルを訪問、同省専門官と会談しました。昨今の資源開発熱の高まりの中、資源学に関連した教育機関に限られており、さらなる資源技術者養成に力点を置く必要性に迫られていることが根幹にあります。教育省としては、新たな資源系大学もしくは学部の設置を検討しており、日本の大学の教育における協力、学生／教官交流を積極的に推進したいと希望しています。秋田大学としても、金属鉱物資源や石油エネルギー分野で全面的に協力したいとの見解を表明いたしました。(水田敏夫：MIZUTA, Toshio — 国際資源学教育研究センター)



● 長安大学を訪問

2010年3月14日から17日まで、井上浩副学長、VBL研究員の張宏兵氏と私で中国の長安大学を訪問しました。現地では、馬建校長、李西建国際センター長を始めとする多くの方々とお会いし交流を深めてきました。



長安大学は大学院を含めた学生数が約3万人、教員が約1700人で、工学系は交通・道路建設、建築に重点化されています。また、水資源、地質、材料、制御、電気系にも力を入れているほか、日本語学科もあり日本との交流に積極的であると感じました。キャンパスは合計5つあり、その中には自動車の研究のためのテストコースがあるなど、これからの中国の発展において重要な役割を果たす大学になると感じてきました。(鈴木雅史：SUZUKI, Masafumi — 工学資源学研究科電気電子工学専攻電気エネルギー工学講座)

○ 専任教員からひとこと

2001年、欧州評議会は言語能力の理念体系「ヨーロッパ言語共通参照枠」(=CEFR)を発行した。CEFRは、一個人が聞く・話す・読む・書く力全てを十分に身に付けることを重視していない。十全でなくとも持てる力を出し合い、第三者の協力も得ながら何とか意思疎通を図っていく、そうしたコミュニケーション能力の獲得を目指している。

言語教育にとって非常に斬新な目標設定であり注目を集

○ Sonya と Roz がやってきた

真夏のオーストラリアからグリフィス大学のソーニャとロズが、真冬の秋田にやって来ました。2009年度国際交流事業のひとつ「秋田大学留学シミュレーション(2010年1月18～30日)」に参加するためです。

この事業は、学生交流の活性化と外国語教員養成プログラムの充実を目的としたものでした。実質10日間という短期



間の滞在中、日本語の授業はもちろん、茶道と華道を体験し、柔道や日本舞踊に見惚れ、雪の角館の風情も味わうなどして、日本の文化に触れました。でも、彼女たちの心に一番強く残ったことは、日本人の友人ができたことのようなでした。ソーニャとロズの留学シミュレーションは、協定校制度が将来を担う人材のネットワーク作りに寄与することを示してくれました。(佐々木雅子：SASAKI, Masako — 教育文化学部教科教育学講座)

○ 国際交流センター・スタッフ紹介 3

● 齋藤裕幸 ●●●●●●●●●● SAITO, Hiroyuki

国際交流に携わって3年目になりました。仕事は主に大学間協定締結に関することと国際交流センターの庶務的な業務をしています。皆さんの留学生活が充実したものになるようバックアップしたいと思っています。

● 正木康子 ●●●●●●●●●● MASAKI, Yasuko

2010年5月から国際交流課で企画事務員として勤務しています。より多くの日本人学生に海外留学を経験してもらえるよう、また、たくさんの留学生に秋田大学で充実した学生生活を送ってもらえるよう企画していきたいです。



牲川波都季

めているが、実はこうしたコミュニケーション能力は言語を教えることでは育たない。まずは伝えあいたい・伝えあおうとする意欲が必要であり、さらにこの意欲を生むのは、すべての人々は平等で代替不可能な存在なのだという、根本的な人間観である。根本的な思想を育み保ち続けていくにはどうすればよいのか。難しさを感じている。

(SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター)

● 巣立ちと新たな出会い — 留学生卒業記念パーティー＆オリエンテーション

2010年3月8日に、「平成21年度秋田大学外国人留学生卒業記念パーティー」が、卒業・修了生44名中18名が参加して行われました。

在学生や教職員、学外の関係者の方たち約60名が見守る中、一人ひとりが行ったスピーチでは、流暢な日本語で、秋田での生活を振り返ったり、参加者へのお礼の言葉などを述べるなど、留学当初よりたくましく成長した姿を見せてくれました。今後は、進学や国内就職、帰国就職といったように進路は異なりますが、秋田で学んだことを生かして、それぞれの道で頑張ってくれることと思います。

また、卒業・修了生との別れの一方で、4月には約60名の留学生が新しく秋田大学にやってきました。4月5日には、新規留学生のためのオリエンテーションが開催され、秋田大学での勉強や生活について説明を受けました。新たな仲間が増えたこの4月、秋田大学で学ぶ留学生は、21か国151名になりました。



写真：図書館職員から説明を受ける留学生

● 国際交流課長新任＆退任ご挨拶

● 新任のごあいさつ.....

この4月から現職となりました。出身は秋田ですが約30年の間地元を離れていましたので懐かしい限りです。国内外問わず知らない場所を旅するのが好きで、その土地の旨いもの特に旨い酒が大好きなので現在肝臓のリハビリ中。ドイツのビール、オーストリアのワイン、スイスのワインも意外といけるし…。ユーロ安のうちに時間があればまた旅行したいですね。みなさんよろしく願いいたします。



(笹村和雄：SASAMURA, Kazuo — 国際交流課)

● 国際交流課長 365日の思い出.....

ボディランゲージを得意(?)とする小生、国際交流課長を拝命し、1年間ではありましたが新鮮な経験をさせていただきました。紙面の関係で多くを語ることはできませんが、一番の思い出は、やはり留学生との交流でした。日本文化をどん欲に学ぼうとする素直な姿勢に感動し、はるばる秋田の地を選んでくれたことに感謝し、つついお節介おじさんに変身していました。友達となったモンゴルのナムスライさんを訪ねて、いつか家族でモンゴルに行きたいと思っております。



(石川勉：ISHIKAWA,

Tsutomu — 秋田工業高等専門学校学生課)

● お知らせ

● 留学生相談室「お茶っこ飲み」.....

**International Student Counseling “Tea Time”
Tuesdays 15:00-17:00 at Multicultural Lounge**

留学生相談室「お茶っこ飲み」は、今年春から新しい場所と時間で行なっています。

- 場所： 多文化交流ラウンジ
- 時間： 毎週火曜日 午後3時～5時

相談したいことがある人も、ただ話したい人も利用できます。友だちと一緒に来ることも可能です。また、必要に応じて他の人が来ない別室で相談を聞くこともできます。

予約は不要です。生活上の困りごとや日本語の学習に関する事など、なんでもどうぞ。

● 留学生相談室「ミニ講座」.....

Mini Lectures at Multicultural Lounge

留学生相談室では楽しく役に立つ「ミニ講座」を今年も行っています。今学期のミニ講座は次の3つです。

- 6月15日「自分の歩き方知っていますか？——足元から健康を考える」姫野完治准教授（教育文化学部）
- 6月29日「世界を変える社会的起業家」坪井ひろみ准教授（大学院工学資源学研究所）
- 7月13日「英語教育から学ぶ外国語の教え方」若保彦准教授（教育文化学部）

会場は**多文化交流ラウンジ**、時間は火曜日の**午後4時20分～5時15分**です。留学生も日本人学生も参加できます。予約は不要です。この日に相談したいことがある人は知らせてください。別室で聞きます。

(佐藤雅彦：SATO, Masahiko — 日本語教育担当教員)

秋田大学の留学生数 (2010年7月1日現在)

▶ 学部生：91名 ▶ 大学院生：35名 ▶ 交換留学生・研究生等：24名 **計：150名**